

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
麻生医療福祉専門学校 福岡校	平成9年2月13日	竹口 伸一郎	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2-12-29 (電話) 092-415-2294																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人麻生塾	昭和26年3月12日	麻生 健	〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
教育・社会福祉	福祉・教育専門課程	こども未来学科	平成21年文部科学大臣 告示第22号	—																			
学科の目的	近畿大学九州短期大学通信教育部保育科併修による短大卒(保育科)と保育士資格、幼稚園教諭二種免許の取得とともに、レクリエーションインストラクター資格の取得を目指す。また、人格形成の上で重要な乳幼児期に関わる保育者の役割を認識し、知識・技術・人間性を高めることで、乳幼児保育の分野で広く活躍できる人材を育成する。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	講義		演習	実習	実験	実技																
3年	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数 3,244時間	1,596時間		698時間	480時間	0時間	582時間																
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
120人		73人	0	3人	31人	34人																	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各期毎5段階にて評価 担当教員が定期試験、出席等の状況をもとに評価																			
長期休み	■夏季:8月11日～9月10日 ■冬季:12月24日～1月8日 ■春季:3月14日～4月5日		卒業・進級条件	ア.指定科目全ての修得 イ.学年の出席率90%以上 ウ.卒業基準検定の取得 エ.学生としてふさわしい生活態度																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任および学科教員との個別ガイダンスの実施。 学科責任者との面談、三者面談の実施。		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有																			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 保育園・幼稚園・児童福祉施設 ■就職指導内容 2年次後期より就職実務科目にて就職指導を実施し、3月に就職合宿を行い、就職に対する意識を高める。3年次では就職実務と並行して自主実習を推進し、ミスマッチおよび早期離職の防止に努めている。 ■卒業者数 29 人 ■就職希望者数 26 人 ■就職者数 26 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 89.7 % ■その他 ・進学者数:0人 ・近畿大学九州短期大学通信教育部保育科 在籍延長:2人 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園教諭二種免許</td> <td>①</td> <td>27人</td> <td>27人</td> </tr> <tr> <td>保育士資格</td> <td>①</td> <td>26人</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>社会福祉主事任用資格</td> <td>①</td> <td>27人</td> <td>27人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 特になし				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	幼稚園教諭二種免許	①	27人	27人	保育士資格	①	26人	26人	社会福祉主事任用資格	①	27人	27人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
幼稚園教諭二種免許	①	27人	27人																				
保育士資格	①	26人	26人																				
社会福祉主事任用資格	①	27人	27人																				
中途退学の現状	■中途退学者 11 名 平成28年4月1日時点において、在学者96名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者85名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路の変更、健康問題、経済的問題など ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの検討会の実施。学科責任者や保護者を含めての面談。ガイダンス記録による報告。		中途退学率	11.5 %																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 東日本大震災により被災した進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																						
当該学科のホームページURL	URL: http://www.asojuku.ac.jp/amfc/subject/child/																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

幼稚園教諭二種免許および保育士資格取得のため、近畿大学九州短期大学通信教育部保育科の併修をし、指定されたカリキュラムで授業科目を編成。また、就職先に対して実施するお客様アンケートにより現場のニーズを把握し科目編成に生かす。なお、実習先へのヒアリング等を基に、指定カリキュラムでは不足している知識・技術を補完するための科目を追加し、現場のニーズに即した授業科目の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。委員会は、次の事項を審議し、会議の結果を学科内でのカリキュラム会議に報告する。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また、カリキュラム会議においては、教育課程委員会からの意見を参考に、学科の教育方針に則ったカリキュラムを検討し、策定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
天野 恵	(福)まごころ会 あゆみらい保育園 主任	平成29年4月～30年3月	③
阿部 良寛	(一社)福岡県私立幼稚園振興協会 常任理事	平成29年4月～30年3月	①
渡辺 裕子	(福)宰府福士会 すみれ園 園長	平成29年4月～30年3月	③
竹口 伸一郎	麻生医療福祉専門学校福岡校 校長		
上野 慎輔	麻生医療福祉専門学校福岡校 校長代行		
山下 和美	麻生医療福祉専門学校福岡校 校長代行補佐		
岩下 隆司	麻生医療福祉専門学校福岡校 副主任		
前田 聖悟	麻生医療福祉専門学校福岡校 専任教員		
上村 仁美	麻生医療福祉専門学校福岡校 専任教員		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間開催数)3回 6月・11月・3月

(開催日時)

- 第1回 平成28年6月25日(土)13:00～14:00
第2回 平成28年11月11日(金)16:00～18:00
第3回 平成29年3月3日(金)16:00～18:00

(開催日時 予定)

- 第1回 平成29年6月24日(土)13:00～14:00
第2回 平成29年11月10日(金)16:00～18:00
第3回 平成30年3月2日(金)16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

委員からは特に実習について「目的意識や積極性の低さ、実体験に乏しく想像力が欠如している」などの意見があったため、実習指導の内容を見直し、現場に則した力がつくように強化するため、保育園、小学校、公民館、病院など外部での、室内遊びの提供や合奏・ダンスの実技を増やしていくこととした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

幼稚園教諭二種免許および保育士資格取得のための必須の単位実習であり、幼稚園・保育所・児童福祉施設の社会的な役割や保育者の役割、施設の一日の流れ、児童について理解することを目的とする。また、習得した知識・技術を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的として実施。実習施設の状況および担当クラスに合わせ見学実習・観察実習・部分実習・全日実習等の実習カリキュラムを調整し実施すると共に、課題の設定および達成を行っていく。

さらに、演習においては、可能な限りフィールドワークを実施し、現実に行っている事象から学習を深めていくことを重視していく。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

保育実習では「保育所保育方針」教育実習では「幼稚園教育要領」に基づいた保育が行えるようになることを到達目標とし、1年次後期に教育実習Ⅰ(幼稚園)10日間、2年次前期に教育実習Ⅱ(幼稚園)10日間、後期に保育実習(保育所)10日間、3年次前期に保育実習(児童福祉施設)10日間および保育所または児童福祉施設実習10日間を行う。

なお、それぞれの実習において巡回指導を行い、実習指導者との面談による学生の状態、課題等の確認を行うと共に、学生との面談を行い、課題の確認と達成のためのアドバイス等を行い、実習施設と指導内容等の調整を行う。

実習終了後には各実習施設より事前準備の取り組み、実習態度と意欲、子どもとの関わりと理解、指導計画及び実習日誌の記入、保育の技術、専門職としての適性等の評価項目により評価していただき、実習評価表を提出してもらい、実習評価表を基に学生に対して実習事後指導を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
教育実習Ⅰ	幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとし、見学・観察・参加実習を主とする実習を行う。	博多幼稚園 博多東幼稚園 甘木双葉幼稚園 前原幼稚園 あすなろ幼稚園 他
教育実習Ⅱ	幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとし、指導実習(部分実習または全日実習)を行う。	博多幼稚園 博多第一幼稚園 くすの木幼稚園 甘木幼稚園 淡水幼稚園 他
保育実習Ⅰ(保育所)	これまで学習してきた理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を養成することを目的とする。	あゆみらい保育園 なかがわ保育園 どんぐり保育園 木の実保育園 だきしめ保育園 他
保育実習Ⅰ(施設)	施設養護にかかわる保育士としての職務内容と役割を実践的に学ぶ実習。児童福祉施設(保育所以外)、その他の社会福祉施設の養護・支援に参加し、実習を通して児童・利用者等の個人差を理解し、その対応と養護技術を学ぶ。	若久緑園 田川湯山荘 甘木山学園 菊水学園 鷹巣学園 他
保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰ(保育)での実践を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を修得することを目的とする。さらに、家庭と地域の生活実態にふれ、現在求められている子育て支援に必要とされる能力と、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成を目的とする。	城の原保育園 天星丸保育園 あすなろ保育園 内浜保育園 那珂保育所 他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員に対して、現在就いている職務又は将来就くことが予想される、職務の遂行に必要な知識・技能を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が、計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・平成28年度近畿大学九州短期大学通信教育部連携校事務連絡会内研修
目的:「教育実習」科目の授業運営に関する効果的指導方法についての研修。
「履修カルテの運用等について」講師:近畿大学九州短期大学部 金教授(平成28年8月 専任教員1名)

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・授業スキルⅠ(1年目教員対象):基本的な授業の方法を確認することを目的として、模擬授業を行い「授業アドバイスシート」に基づいた、基本的な授業の方法を確認する。内部講師による研修。(平成28年10月19日 専任教員1名)
- ・「教員を困らせる学力不足や障害者等の学生の社会人基礎力向上対策」:発達障害をはじめ、様々な要因でコミュニケーションを図ることが困難な学生の特徴や対応の方法を学ぶ。全国専門学校教育研究会主催。講師:(株)キズキ 仁枝幹太氏等。(平成29年2月22日～23日 専任教員1名)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・子ども家庭応援(おせっかい)ワーカー養成講座2017:福岡市こども総合相談センターの子育て見守り訪問や子ども家庭支援センターはぐはぐの活動をしている、ワーカーズコープ九州沖縄事業本部が主催(平成29年5月～9月:全14回 専任教員)
- ・平成29年度近畿大学九州短期大学通信教育部 連携校事務連絡会内研修(平成29年8月 専任教員)

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・授業スキルⅠ(1年目教員対象):基本的な授業の方法を確認することを目的として、模擬授業を行い「授業アドバイスシート」に基づいた、基本的な授業の方法を確認する。内部講師による研修。(平成29年10月18日 専任教員)
- ・カウンセリングⅠ:学生面談、学生指導における基本的知識を習得することを目的として、カウンセリングにおける傾聴の技法、体験学習、個別面談の心得を学ぶ。講師:日本交流分析協会准教授 廣田哲成氏(平成29年5月17日 専任教員)
- ・カウンセリングⅡ:ケーススタディを通して、カウンセリングの応用力を高めることを目的として、ロールプレイングによるケーススタディで、個別面談の仕方を学ぶ。講師:日本交流分析協会准教授 廣田哲成氏(平成29年5月24日 専任教員)
- ・メンタルヘルス:ストレス対処に関する基本知識を習得し、学生指導に活かすことを目的として、メンタルヘルスの現状、ストレスの要因とストレス反応、ストレス対処について学び、相談機関について知る。講師:日本予防医学協会医師・保健師(平成29年10月25日 教職員)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	建学の精神、法人の理念、教育理念、学科の教育目的・育人人材像、他
(2) 学校運営	教員組織の整備、運営会議での共有、防災・非常時対策、コンプライアンス
(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、授業評価による改善、付加的教育、他

(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、学生の就職活動・卒業率
(5)学生支援	担任他との定期面談、有資格者との就職相談・生活相談、奨学金、卒業生支援
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	ADの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	規程通りの運営、個人情報保護、ハラスメント防止、学内規程の整備
(10)社会貢献・地域貢献	社会的活動の推進・実施、公開講座、企業・地域・行政との連携
(11)国際交流	留学生の受入れ・支援

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校運営・教育活動に関する意見としては、委員より、教師・授業アンケートをWEBアンケートにて実施しているという意見をいただき、本校においても検討する方向とした。保育業界に従事している卒業生及び連携施設等の委員より、保育士の確保と卒業後の離職防止に向けた取り組みについての意見や要望があり、学校単位・学科単位での取り組みに期待しているとの意見が挙げられた。保育人材の不足は、この分野を目指す本校学生数の減少とも密接に繋がっており、本学科においてもますます施設や地域とのつながりを密にして、現場の魅力を発信していく機会を増やすこととする。離職防止に関しては、業界の魅力発信とともに、現状認識にも重点をおくよう、就職実務における施設の方や卒業生の講話の内容を強化する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
玉ノ井 敏子	(福)まごころ会 あゆみらい保育園 園長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
渡辺 裕子	(福)宰府福社会 すみれ園 園長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
桑原 由美子	(NPO)発達障がい者就労支援ゆあしっふ 理事長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
武田 聡	(NPO)木もれ日 カフェ ヒュッテ 施設長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
江川 順一	(福)福岡愛心の丘 月隈愛心の丘 施設長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
大庭 欣二	福岡福祉向上委員会 代表	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
占部 尊士	西九州大学短期大学部 准教授	平成29年4月～平成31年3月	その他
松尾 智子	(公社)福岡県介護福祉士会 研修委員	平成29年4月～平成31年3月	その他
大山 和宏	福岡県精神保健福祉士協会 会長	平成29年4月～平成31年3月	その他
潮田 大介	(有)ケンルック 事務長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
副島 和代	そえじま内科クリニック 事務長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
井上 将彦	(医)聖峰会 マリン病院 事務次長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
小西 英樹	公立学校共済組合 九州中央病院 事務部長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
池田 典生	(一財)日本医療教育財団 福岡支部長	平成29年4月～平成31年3月	その他
熊谷 智彦	久留米学園高等学校 校長	平成28年4月～平成30年3月	高校関係者
高田 照幸	株式会社 たかた商会 代表取締役	平成29年4月～平成31年3月	地域住民
中島 文香	こども未来学科 保護者	平成28年4月～平成30年3月	PTA
野上 祐子	社会福祉科 保護者	平成28年4月～平成30年3月	PTA
蒲池 桂子	福祉心理学科 保護者	平成28年4月～平成30年3月	PTA
尾下 千賀子	ソーシャルワーカー科 保護者	平成28年4月～平成30年3月	PTA
木下 典子	医療秘書科 保護者	平成29年4月～平成31年3月	PTA

塚本 のり子	医療情報科 保護者	平成29年4月～平成31年3月	PTA
所崎 あすか	診療情報管理士科 保護者	平成29年4月～平成31年3月	PTA
眞島 顕弥	こども未来学科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
宮井 浩志	社会福祉科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
児玉 諒	心理カウンセラー科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
池上 幸子	介護福祉科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
山下 朋子	ソーシャルワーカー科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
大本 栞	医療秘書科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
庄崎 綾乃	医療情報科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
中井 志帆	診療情報管理士科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ 毎年9月)

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/disclosure/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校法人の沿革、教育の目標、学則、諸規程
(2)各学科等の教育	学科の教育方針、年次別目標、目標資格、カリキュラム、進級・卒業要件、他
(3)教職員	教員一覧、専任・兼任教員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	グローバルシティズンベーシック、インターンシップ、教育課程編成委員会
(5)様々な教育活動・教育環境	学園祭、ボランティア活動、クラブ活動
(6)学生の生活支援	臨床心理士による学生相談室、ハラスメント相談、留学生支援、障がい者支援
(7)学生納付金・修学支援	金額・納付時期、分割納入制度、授業料減免、奨学金、被災地支援
(8)学校の財務	貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

パンフレット、募集要項、学生便覧、Webサイト

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/amfc/>

授業科目等の概要

(福祉・教育専門課程 こども未来学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			教育心理学	子どもの学習行動を概念の獲得、筋道を立てて考える思考の形成、勉強の仕方、学習に対する意欲・自発性、態度・学習を肯定する価値観を軸にして教育心理学を考える。	1前	16		○			○				
○			教育原理	教育の本質と意義を理解し、教育に関する基礎的な概念と知識の習得をはかると共に、将来あるいは現在、保育者として、親として、一人の大人として、現実一人ひとりの子どもに具体的にどのように対処していけばいいのか、あるいは実際の教育問題にどう対処しどう解決していけばいいのかなどといった教育をめぐるきわめて重大な課題をより幅広く柔軟な視野で自分なりに考え実践していくための基礎を培う。	1前	30		○			○				
○			造形表現（指導法）	幼児の造形の発達に関する内容や実践的な表現活動内容の研究を行い、幼児の造形活動に対して適切な援助と教育を行える能力を身に付ける。	1前	30		△	○		○				
○			教育課程総論	将来保育に関する専門職に就こうとする一人ひとりの者が、他からの借り物の計画に頼るのではなく、自分の担当する子どもたちの実態に即して、自主的に保育計画を編成することができるようになるために必要な基礎的な力を養う。	1前	30		○			○				
○			人間関係（指導法）SC	子どもの人間関係の形成をめぐる諸問題について理解を深め、領域「人間関係」の内容及び意義について学習する。	1前	16		△	○		○				
○			造形表現（指導法）SC	幼児の造形の発達に関する内容や実践的な表現活動内容の研究を行い、幼児の造形活動に対して適切な援助と教育を行える能力を身に付ける。	1前	16			○		○				
○			音楽表現（指導法）SC	0才からの音楽的あやし言葉かけ遊び、月令、年齢に応じた手遊びやリズム遊び、歌唱曲を動きのある遊びに創作したり、それを実践するなど遊びを中心に実践する。	1前	16				○		○			
○			環境（指導法）SC	現代の環境で子ども達の生きる力を培うための保育の工夫、すなわち、自然体験、社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に、子どもの自然とのかかわりを深める保育の実践的指導能力の育成を目指す。	1前	16			○			○			
○			音楽表現 I	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、楽曲の基礎を学び、譜面の読み方やリズムの取り方を理解する。	1前	48					○	○			

○		教育実習 I	幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとし、見学・観察・参加実習を主とする実習行う。	1 後	80					○		○	○	○	○
○		音楽表現 I-②	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、楽曲の基礎を学び、譜面の読み方やリズムの取り方を理解する。	1 後	48					○	○			○	
○		合奏 I-②	幼児教育に携わる保育者の合奏技術の習得を目指す。	1 後	16					○	○			○	
○		教育実習指導 I-②	教育実習を円滑に行うために、教育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に指導計画案の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技術を身につける。	1 後	30			○	△		○		○		
○		実習実務 II	実習先への電話の掛け方、実習生個人票の作成、オリエンテーションでの確認事項、実習先訪問の際の注意点など、実習前の準備等を指導・確認していく	1 後	16					○			○		○
○		保育実技 I-②	幼稚園教諭として必要な技術（手遊び、制作、遊びなど）を身に付ける（応用編）	1 後	16						○	○			○
○		レクリエーション II	レクリエーションインストラクターの役割について理解し、レクリエーション活動支援の基礎技術を習得する。	1 後	30					○					○
○		カウンセリング概論	保育士として必要な技術（手遊び、制作、遊びなど）を身に付ける（応用編）	1 後	30					○					○
○		乳幼児の発達 I	乳幼児期の子どもの心身の発育・発達の過程や生活環境など、子どもの発達の全体的な姿を把握する	1 後	16					○					○
○		ペン字 I-②	正しい文字、読みやすい文章を書くコツを知り、常に丁寧を書く意識を持つ。	1 後	16					○					○
○		一般教養 I-②	一般教養に関する基礎学力を身に付ける	1 後	30					○					○
○		総合演習 I	各授業で学んだ内容のつながりを認識し、知識を深める	1 後	30					○					○
○		交流ゼミ I-②	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	1 後	16					○					○
○		LHR I	担任クラスの学生指導、クラス運営等についてグループワークを通し、社会人としての協調性・責任感を身に付ける。	1 後	16					○					○

○		言語表現 S C	保育者として、子どもの発達段階にあった絵本や紙芝居などを提供するのための知識、読み聞かせの技術について学ぶ。また、子どもが児童文化財に親しむために必要な、言語環境の整備の方法について理解し、遊びを通して子どもが積極的に児童文化財を経験できる方法について理解する。	2 前	16		○	△	○	○				
○		教育実習 II	幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとし、指導実習（部分実習または全日実習）を行う。	2 前	80				○	○	○	○	○	
○		音楽表現 II	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、子どもの歌の弾き歌いを通して、歌唱指導の方法について学ぶ。	2 前	48				○	○			○	
○		合奏 II	幼児教育に携わる保育者の合奏技術の習得を目指す。	2 前	16				○	○			○	
○		教育実習指導 II	教育実習を円滑に行うために、教育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に指導計画案の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技術を身につける。	2 前	30		○	△	○		○			
○		保育園実習指導 I	将来保育に関する専門職に就こうとする一人ひとりの者が、他からの借り物の計画に頼るのではなく、自分の担当する子どもたちの実態に即して、自主的に保育計画を編成することができるようになるために必要な基礎的な力を養う。	2 前	16		○	△	○		○			
○		保育実技 II	保育士として必要な技術（手遊び、制作、遊びなど）を身に付ける（入門編）	2 前	30				○	○			○	
○		カウンセリング演習	カウンセリングの基礎について学び、実践的なカウンセリング技法を習得する。	2 前	16				○		○			○
○		乳幼児の発達 II	乳幼児期の子どもの心身の発達・発達の過程や生活環境など、子どもの発達の全体的な姿を把握する	2 前	16				○		○			○
○		オペレッタ I	クラスで一つのものを作り上げるというテーマのもと、オペレッタの企画・準備・発表までを行う。	2 前	16				○		○			○
○		一般教養 II	一般教養に関する基礎学力を身に付ける	2 前	30				○		○			○
○		交流ゼミ II	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	2 前	16				○		○			○

○		情報処理入門 I	情報の意味とコンピュータの発達過程、ハードウェア/ソフトウェアについて理解する。	2後	30				○	○	○								
○		家庭支援論	社会の変化によって現在の家族がどのように変わってきているか。今まで地域社会や親族、家族が果たしてきた役割、機能は何か。子どもを取りまく社会環境を点検し、これからの家族のあり方、役割を考えると共に、子育てを通し親や地域社会への援助の必要性とその方法を理解する。また、保育所の他にも、保健福祉センター、児童相談所、病院などの施設や機関、また子育てサークルなどの民間の団体が、社会のニーズにどのように対応しているか、その役割と機能を理解する。	2後	30				○	○								○	
○		障害児保育	子どもの心身の発達について及び脳の発達について理解を深め、それを基盤にして子どもの知的・身体的障害についての理解を深めていく。そして、障害児の発達の变化を促す保育的援助について考える。	2後	16				○		○								○
○		発達心理学	発達心理学者として乳幼児教育に多大な影響を与えたJ. McV. ハント博士の理論を通して乳幼児の精神発達とその教育について学ぶ。	2後	30				○		○								○
○		健康 II	子どもの全面的な発達を促すために、人間の身体や健康、それにかかわる環境についての理解を深め、子どもの健康に必要な知識とその指導、援助の技術、技能獲得を目指す。	2後	16				○		○								○
○		音楽（器楽・声楽）② S C	幼児教育にたずさわる保育者の、音楽技術の習得や資質の向上を目指す。	2後	16						○		○						○
○		保育実習事前事後指導 I（保育所） S C	保育実習（保育所）を円滑に行うために、保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に指導計画案の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技術を身につける。	2後	16				○	△		○							○
○		情報処理入門 I S C	Word（ワープロ）・Excel（表計算）・Power Point（プレゼンテーション）のオフィススイートの基本操作を習得する。	2後	16				○		○								○
○		幼児体育 S C	幼児期と小学校低学年段階との発達の関連からその体育的な活動に関わった教育・保育内容とその方法を検討し、幼児体育を実践する上で必要な運動遊びのレパートリーを習得すること、さらに、そうした遊びの連続性・発展性を広げていく上での視点に関わった実践的知識を習得する。	2後	16						○		○						○
○		保育実習 I（保育所）	これまで学習してきた理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を養成することを目的とする。	2後	80						○		○		○				○
○		音楽表現 II - ②	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、子どもの歌の弾き歌いを通して、歌唱指導の方法について学ぶ。	2後	48						○	○							○

○		合奏Ⅱ-②	幼児教育に携わる保育者の合奏技術の習得を目指す。	2後	16				○	○				○
○		保育園実習指導Ⅱ	将来保育に関する専門職に就こうとする一人ひとりの者が、他からの借り物の計画に頼るのではなく、自分の担当する子どもたちの実態に即して、自主的に保育計画を編成することができるようになるために必要な基礎的な力を養う。	2後	30		○	△		○				○
○		保育実技Ⅱ-②	保育士として必要な技術（手遊び、制作、遊びなど）を身に付ける（応用編）	2後	16				○	○				○
○		オペレッタⅠ-②	クラスで一つのものを作り上げるというテーマのもと、オペレッタの企画・準備・発表までを行う。	2後	30			○		○				○
○		一般教養Ⅱ-②	一般教養に関する基礎学力を身に付ける	2後	30			○		○				○
○		就職実務Ⅰ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れ・対策を深める。	2後	16			○		○				○
○		総合演習Ⅱ	1年次の学習内容を踏まえ、より実践的な指導方法を学ぶ	2後	30			○		○				○
○		交流ゼミⅡ-②	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	2後	16			○		○				○
○		GCBⅡ	「志を立てる」をテーマに、夢・ビジョン・志、国際社会、成功者、自己変革を学ぶ。	2後	16			○		○				○
○		LHRⅡ	担任クラスの学生指導、クラス運営等についてグループワークを通し、社会人としての協調性・責任感を身に付ける。	2後	16			○		○				○
○		子どもの保健Ⅰ②	子どもの保健の意義を理解し、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題、子どもの心身の正常な発育と各期の特徴、子どもの保健行政について理解する。	3前	30			○		○				○
○		日本国憲法	日本国憲法の全体的な枠組みを体系的に理解しながら、憲法が求めている理念とは何か、また、現実社会との間にどのようなギャップがあるかを見つめながら、憲法問題に対するリーガルマインドを養っていく。	3前	30			○		○				○

○		子どもの保健 Ⅱ S C	子どもの健康と生命を守るための実践力を身につける。	3 前	16		○			○										
○		保育相談支援 S C	保護者支援の意義や基本を理解した上で、保護者支援の方法や技術を学ぶ。	3 前	16		○			○										
○		障害児保育 S C	子どもの心身の発達について及び脳の発達について理解を深め、それを基盤にして子どもの知的・身体的障害についての理解を深めていく。そして、障害児の発達的变化を促す保育的援助について考える。	3 前	16		○			○										
○		社会的養護内容 S C	養護原理をふまえて、社会的養護の中でも特に施設養護に焦点をあてて、各種児童施設における目的と機能、養護プログラムの展開、児童処遇の実際を理解する。	3 前	16		○			○										
○		相談援助 S C	将来に保育士を目指す者にとって必要とされる相談援助活動（社会福祉援助技術）の基礎を修得する。	3 前	16		○			○										
○		保育実習Ⅰ （施設）	施設養護にかかわる保育士としての職務内容と役割を実践的に学ぶ実習。児童福祉施設（保育所以外）、その他の社会福祉施設の養護・支援に参加し、実習を通して児童・利用者等の個人差を理解し、その対応と養護技術を学ぶ。	3 前	80					○		○	○	○	○	○				
	○	【選択】保育 実習Ⅱ	保育実習での実践を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力。技術を修得することを目的とする。さらに、家庭と地域の生活実態にふれ、子育てを支援するために必要とされる能力と、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成を目的とする。 （保育実習Ⅱと保育実習Ⅲ（施設）のいずれかを選択）	3 前	80					○		○	○	○	○	○				
	○	【選択】保育 実習Ⅲ	保育実習Ⅰでの実践を通して学んだ技術と理論を基盤として、保育士として必要な資質・能力・技術の向上を目的とする。また、施設をとりまく家庭と地域の生活実態にふれ、家庭福祉ニーズに対する理解力を深め、子育てを支援するために必要とされる能力を養うことを目的とする。 （保育実習Ⅱと保育実習Ⅲ（施設）のいずれかを選択）	3 前	80					○		○	○	○	○	○				
○		音楽表現Ⅲ	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、より実践的な音楽指導法を身に付け、スキルの向上を目指す。	3 前	30					○	○									
○		ペン字Ⅱ	正しい文字、読みやすい文章を書くコツを知り、常に丁寧に書く意識を持つ。	3 前	16					○		○								
○		一般教養Ⅲ	一般教養に関する基礎学力を身に付ける	3 前	16		○			○			○							

○		児童福祉施設 実習指導	児童養護施設等の機能や内容、実習の目的や意義を理解すること、さらに、専門教科目で習得した知識や技能と施設における実践とを具体的に統合することによって実習に対する意欲や課題意識を高める。	3 前	48		○	△	○	○								
○		【選択】保育 実習指導	保育所の機能や内容、実習の目的や意義を理解すること、さらに、専門教科目で習得した知識や技能と施設における実践とを具体的に統合することによって実習に対する意欲や課題意識を高める。 (施設実習指導と保育実習指導のいずれかを選択)	3 前	16		○	△	○	○								
○		【選択】施設 実習指導	児童養護施設等の機能や内容、実習の目的や意義を理解すること、さらに、専門教科目で習得した知識や技能と施設における実践とを具体的に統合することによって実習に対する意欲や課題意識を高める。 (施設実習指導と保育実習指導のいずれかを選択)	3 前	16		○	△	○	○								
○		オペレッタⅡ	クラスで一つのものを作り上げるというテーマのもと、オペレッタの企画・準備・発表までを行う。	3 前	16			○	○	○								
○		卒業論文Ⅰ	保育や幼児教育などに関するテーマを設定し、グループ調査・研究を通して論文としてまとめ、発表を行う。	3 前	16		○		○	○								
○		就職実務Ⅱ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れ・対策を深める。	3 前	30		○		○	○								
○		交流ゼミⅢ	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	3 前	16			○	○	○								
○		保育・教職実践演習SC	これまでの学習を通して身につけた知識や技術、資質能力が保育現場で発揮できるよう、形成されているかどうかを検討する。	3 後	16			○	○	○								
○		音楽表現Ⅲ-②	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、より実践的な音楽指導法を身に付け、スキルの向上を目指す。	3 後	30				○	○								
○		マナー	名刺交換など初対面のビジネスマナー、社会人一年目の正しい言葉遣い、保護者対応、職場内でのマナー、連絡帳の記入方法などを身に付ける。	3 後	16		○	△	○	○								
○		ペン字Ⅱ-②	正しい文字、読みやすい文章を書くコツを知り、常に丁寧に書く意識を持つ。	3 後	16			○	○	○								
○		障害児保育Ⅱ	子どもの心身の発達について及び脳の発達について理解を深め、それを基盤にして子どもの知的・身体的障害についての理解をさらに深めていく。そして、障害児の発達の変化を促す保育的援助について考える。	3 後	30		○		○	○								

○		保育実技Ⅲ	保育士・幼稚園教諭として必要な技術（手遊び、製作、遊びなど）を自ら考え、実行できる能力を身に付ける	3 後	30				○	○										
○		児童家庭福祉Ⅱ	「児童家庭福祉」で習得した児童家庭福祉全般についての基礎知識と「相談援助」で学ぶ社会福祉の専門的方法を基礎として、児童の生存権や発達権を保障するためのすべての子どもや家庭に対するサービスの援助技術・方法の基本的知識に関する理解を深める。	3 後	16			○		○										○
○		保育・教職実践演習Ⅱ	自らの学びを振り返り保育士、幼稚園教諭として必要な知識・技能の習得を確認する。また、保育士、幼稚園教諭として必要なコミュニケーション能力の習得、および使命感と職務内容について理解する。	3 後	30			○		○										○
○		一般教養Ⅲ-②	一般教養に関する基礎学力を身に付ける	3 後	16			○												○
○		自主実習演習	保育所、幼稚園、施設等への実習やボランティアを通して、更なる知識、技術の向上を目的とする。また、実習・ボランティア先との連絡や準備等、主体的に活動を行うことで自主性、積極性の醸成を目的とする	3 後	30			○		△	○	○								
○		選択授業	各自の知識、技術の向上を目的に、ピアノ技術の向上や障害児の知識などを学ぶ	3 後	16			○												○
○		卒業論文Ⅱ	保育や幼児教育などに関するテーマを設定し、グループ調査・研究を通して論文としてまとめ、発表を行う。	3 後	48			○												○
○		就職実務Ⅲ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れ・対策を深める。	3 後	30			○												○
○		自然体験基礎	動植物に触れる機会を設け、子どもたちへの指導方法を学ぶ	3 後	30			○												○
○		交流ゼミⅢ-②	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	3 後	16			○												○
○		LHRⅢ	担任クラスの学生指導、クラス運営等についてグループワークを通し、社会人としての協調性・責任感を身に付ける。	3 後	16			○												○
合計					132科目	3,244単位時間(単位)														

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> 各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。 学年の出席率が90%以上であること。 学生としてふさわしい生活態度であること。 	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	15週	